

INTERVIEW

英国の海底送電事業に プロジェクトファイナンス

日本企業が参画する
英国海底送電事業で 3 件目の支援

インフラ・環境ファイナンス部門 電力・新エネルギー第 1 部
第 2 ユニット

武内 香奈枝 調査役に聞く



武内 調査役

JBIC は、2025 年 3 月、株式会社キューデン・インターナショナル、九州電力送配電株式会社と英国法人 Equitix Investment Management Limited (EIM 社) が出資する英国法人 Seagreen Phase 1 OFTO Project Limited (Seagreen 社) と、英国の Seagreen 洋上風力発電所向け海底送電事業を対象として、約 2 億 8,300 万英ポンド (JBIC 分) を限度とするプロジェクトファイナンス (PF) による貸付契約を結びました。

本融資は、三井住友信託銀行株式会社、株式会社みずほ銀行、Aviva Life & Pensions UK Limited との協調融資で、融資総額は約 5 億 6,800 万英ポンドです。

日本の電力会社の海外展開を支援

本プロジェクトは、英国北東部のアングス東方沖合約 27km の地点に建設される総発電容量 1,075MW の Seagreen 洋上風力発電所の送変電設備を Seagreen 社が所有・運営し、洋上で発電される電力を 24 年間にわたりグレートブリテン島まで送電する事業です。

「JBIC は、これまでに日本企業が参画する 2 件の英国の洋上風力発電事業に融資しています。海底送電事業でも、2021 年に Hornsea1 洋上風力発電所、2023 年に Triton Knoll 洋上風力発電所向けの海底送電事業に融資しており、本件が 3 件目となります。

英国政府は、2019 年に気候変動法を改正し、2050 年までに二酸化炭素ネット排出量をゼロにする法定目標を掲げ、洋上風力発電所をはじめ再生可能エネルギー（再エネ）の導入を推進しています。海底送変電設備は洋上で発電した電力をロスなく需要地に運ぶためにも重要な役割を担っており、本プロジェクトも、英国政府のエネルギー政策に沿ったものです。また、日本の電力会社などが参画する海外発電や送配電事業を支援することは、日本政府の『日本企業が取り組む脱炭素技術の技術開発・社会実装への支援を通じたエネルギー産業の国際競争力の強化』、『質の高いインフラの海外展開支援』という施策に応えるものです」と、武内香奈枝調査役は JBIC が支援する海底送電事業プロジェクトの意義について語ります。

事業計画に合わせて短期間で契約交渉をまとめる

今回の Seagreen 送変電設備については、2022 年の年明けにスポンサーから PF による融資の相談を受け、2023 年末に九州電力グループが優先交渉権を獲得してから融資交渉の準備を進めてきました。

「英国では発電事業者と送電事業者が分離されており、発電事業者が発電設備と送変電設備を建設した後に、事業権入札で優先交渉権を獲得した事業者が送変電設備を取得して事業を行うシステムが確立しています。本件の本格的な融資交渉が始まったのは、私が担当になった 2024 年夏からでした。しかも、期限である 2025 年 3 月末までに資産を移転し Seagreen 社が事業を開始するには、数か月以内

に融資契約をまとめる必要がありました。

JBIC は、英国側のスポンサーである EIM 社とは Triton Knoll 海底送電事業への融資で実績があり、九州電力グループともアラブ首長国連邦アブダビ首長国高圧直流海底送電事業に融資を行った実績がありました。こうした実績を生かして短期間で交渉をまとめるべく取り組みました。特に、重視したのが技術上の審査です。海底に敷設した送電線を 24 年間にわたり安定して維持・運営できるかどうか、専門家を交えて先行プロジェクトの事例を含めて調査し、リスクの評価を行いました。

また、契約交渉の途中で、Seagreen 社に送変電資産運営の対価を支払い、本プロジェクトのスキーム上重要な関係者となる、英国の電力送電システムの運用を担っていた系統運用機関が、英国のエネルギーシステムの強靱化及び温室効果ガスの排出ネットゼロへの移行の促進を、目指す英国政府の決定を受け、機能拡大及び公的機関化され、組織体制も新しくなりました。このため、新組織の業務内容や体制がどうなるのか、英国政府のサポート体制はどう変わるのかなどの新しい組織のリスクをどう見るのかといった新たな 이슈が出てきました。幸い、新しい組織を含む英国電力セクターを所管する英国政府関係者が来日する機会を捉えて面談し、新しい組織の詳細や英国サポートを直接確認することができ、本プロジェクトの検討が円滑に進みました。また、英国政府関係者からも英国海底送電事業における JBIC の支援を高く評価いただきました」と武内調査役。

こうしてスポンサーとの融資契約交渉は着実に進み、2024 年末に基本合意を得ることができ、3 月の契約調印に至りました。プロジェクトは 2025 年 3 月に Seagreen 社への送変電設備の所有権移転手続きが完了し、Seagreen 社により海底送電事業の運営が開始されています。

英国での成果を広げ、電力システムの強化にも貢献

武内調査役は、今回の成果と今後の取り組みについて語ります。「九州電力グループは『経営ビジョン 2030』において、海外での持分出力を 2018 年時点の 200 万 kW から 500 万 kW に拡大する戦略を掲げています。『カーボンニュートラルビジョン 2050』においても、再エネ、低炭素化に資する海外の送配電事業等への積極展開を具体的な行動計画として掲げており、本プロジェクトはこうした取り組みの支援にもつながります。

私自身は、これまでアラブ首長国連邦ドバイ首長国での廃棄物処理・発電プロジェクトに対する PF 融資契約の経験がありましたが、海底送電案件は初めての経験でした。洋上風力発電は英国をはじめ欧州で盛んに行われていますので、今回の経験をふまえて、九州電力グループを含め、日本企業が参画するプロジェクトを JBIC としてこれからも幅広く支援したいと考えています。」